

市、教育委員会は遺族に寄り添うべき

遠山 智恵子 議員

問 中学生生徒自死に対し、首長としての答弁を求める。市長 対応の不手際、またご遺族に大変なご心労をお掛けしました。改めて深くおわびを申し上げます。

問 法律の改正によって、総合教育会議を市長が招集できるようになった。なぜ、緊急に招集しなかったのか。

答 教育委員会の意思決定の変化によって、首長の立場は変わってきたので、関与していきたい。今後、誠意を持って取り組んでいく。

問 教育長は、なぜ、ご遺族の話聞いてあげられなかったのか。

教育長 調査委員会設置において、中立性を重視するあまり、お会いすることを控えていた。ご遺族の意向をお聞きするべきだったと猛省している。

問 当時の担任の指導について、総括、検証が必要。教育参事 当時、一つ一つ検証した。明るく見えてもその裏に何があるかなど子どもを見取らなければならぬことを再認識し、努力している。

優先すべき！生活道路整備

加増 充子 議員

問 井野団地外周道路の早期整備を求める。

建設部長 優先順位は、第1が通学路、第2が道路冠水箇所としている。外周道路は、約2キロで約5億円と想定している。国の補助事業などを勘案し、予算獲得などを研究している。

問 生活道路整備の方針は。

建設部次長 優先順位を検討し、緊急対応はもとより、早期対処による長寿命化が図られるような整備方針を検討していきたい。

問 通学路整備は、学校統廃合時の約束。進行状況は。

建設部長 交通安全プログラムによる修繕は100%実施している。通学路の修繕は国の補助対象。井野団地外周道路は対象にならないので、優先順位が低くなる。



井野団地外周道路

問 これまで西口開発に多額の税金を投入し、今度は桑原地区開発を進めようとしている。市民優先の税金の使い方に転換すべき。

市長 平成20年当時と比べ、扶助費が40億を超える伸び。西口や桑原開発を過大な投資という質問だが、甚だ短期的視点。民間の投資を呼び込み、地域力を上げ、固定資産税など収入を安定的かつ継続的に入るよう努めるのは当然のこと。

【その他の質問】 介護保険制度、取手駅東口

小池 悦子 議員

問 国民健康保険制度を「助け合いの制度」としてあるが、これは旧国保法の文言。新国保法では「社会保障制度」と明記された。考えを改めるべき。

健康増進部長 見解の違いがあるが、社会保障制度でもあり、助け合いの制度という論法は間違っていない。

問 社会保障制度の理念に立てば短期保険証や資格証明書等、制裁はやめるべき。

答 特別な事情がないのに滞納している方へのものがあり、やめる予定はない。

問 どうしても国保税が納め切れない状況の人をどう思うか。

国保年金課長 国保会計は社会保険等の被用者保険や一般会計の繰り出しなど、国保以外の皆さんの資金も財源の一部となっている。税を納めていない被保険者に対しては、何らかの制裁措置は必要と考えている。

問 来年度から広域化が始まる。どの程度負担が増えるのか。

答 10月に金額が示される予定だが、年額平均1人当たり3000円上がる試算。

問 基金の取り崩しで国保税の引き下げを。

答 軽減枠を拡大している。

【その他の質問】 公共交通政策

問 魅力と力で発信課の活動進行状況は。

政策推進部長 「ほどよく絶妙 とりで」をブランドメッセージとし、これを元にしたプロモーション動画の制作、特設ウェブサイトの構築などを行った。

問 市民の認知度を把握しているのか。

政策推進部次長 今年度の市民アンケートで考えたい。



羽田空港出発ロビーで「ほどよく絶妙とりで」映像を使ってPR

問 県ホームページのバナー広告に掲載する等、純広告費をなぜ計上しないのか。

答 無料のパブリシティ一部分に重きを置いて活動していく考えのため。

問 動画撮影日の天気が悪く、小堀の渡しなど自然の魅力が全く伝わらない。この意識の低さを市民に見せるのは残念。ふるさと納税返礼品に「絶妙ブランド」など加えては。

政策推進部長 あらゆる発信ツールを探していきたい。

問 明るい話題で取手市のイメージを変えるべき。

市長 東京オリンピックが開催される2020年は、市制施行50周年でもある。合理的な費用を投入し、しっかり取り組んでいく。

民間との連携で健康づくり関心拡大

岩澤 信 議員

問 昨年度が最終年度だった

※SWC6特区による健康ポイント実証実験の結果は。健康増進部長 実験を行った6自治体で約1万2000人が参加し、無関心層の方に対する意識付けになった。財源の確保が課題。

問 県内でも複数自治体で健康ポイント事業等を行っている。これにより医療費が抑えられるという調査データもあるがどう考えるか。

答 大規模に展開しないと効果が薄い。この課題解決のための勉強会が立ち上がったので参加している。

問 無関心層を取り込むため、市内のお店や企業と連携しては。

健康づくり推進課長 イベント等で検討する。

市長 民業の力を借りる等、今後も挑戦していく分野。

問 藤代スポーツセンターのテニスコートに照明器具をつける考えはあるか。

スポーツ生涯学習課長 これまで要望はないが、管理運営体制や適合基準など、調査研究していく。

※SWC（スマートウエルネスシティ）とは…健康（健康で幸せ）を町づくりの中心に位置付け、住民が健康で元気に幸せに暮らせる新しい都市モデルである。

SWCの実現に向けて発足された「SWC首長研究会」には取手市も参加している。